

——福島原発事故から約8年——

福島で起きた“あの事故”は、このまま“復興”という言葉で覆い隠されてしまうのか？

事故を起こした原発は今どうなっているのか？

福島の子どもたちはどのような環境の下で生活しているのか？

私たちにできることはあるのか、それは何なのか？

元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏が科学者の立場からわかりやすく説明していただきます。

原発事故と福島の子どもたちの現状を見つめ、“これから”を考える場になればと強く願っています。

〈小出裕章氏プロフィール〉

元京都大学原子炉実験所助教。工学者（原子核工学）。専門は放射線計測、原子力安全。

1949年、東京に生まれる。

1968年、原子力の平和利用を夢に抱き、東北大学工学部原子核工学科に入学。

1970年、女川の反原発集会への参加を機に、原発を止めさせるために原子力研究を続けることを決意。

1974年、東北大学大学院研究科修士課程修了（原子核工学）、京都大学原子炉実験所入所。

2015年、定年退官を機に松本市に移住。

〈信州・大町山の子村キャンプ実行委員会〉

2011年から毎年、信州・大町で福島の子どもたちを対象とした保養キャンプを実施しており、2018年で第8回を数えました。信州大学の学生もボランティアとして2016年から参加を続け、2018年からは実行委員会に参加しています。福島の子どもたちを取巻く現状に強く違和感を覚え、保養キャンプ以外にも何かできることがあるのではないかと模索の結果、今回の講演会を開催するに至りました。ホームページで活動を報告していますので、そちらもぜひご覧下さい。→ホームページ〈<https://yamanokomura.org>〉

〈会場へのアクセス〉

〈施設〉松本市勤労者福祉センター〈www.city.matsumoto.nagano.jp〉

〒390-0811 長野県松本市中央4丁目7番26号

〈交通案内〉

- ・JR松本駅お城口のバスターミナルからアルピコ交通『横田信大循環線』に乗り、「松本市美術館」で下車、北に徒歩4分
- ・JR松本駅から市街地循環バス「タウンスニーカー」の東コースに乗り、「日の出町」で下車、西に徒歩1分
- ・JR松本駅お城口からタクシーで約5分（約1.2キロメートル）
- ・長野自動車道松本ICから約15分（約3キロメートル）

※駐車場が狭いため、お車の方は近隣の駐車場をご利用ください。

〈お問い合わせ〉

電話 090-4068-4329（小林）

Eメール 〈jimukyoku@yamanokomura.org〉

